

眼瞼下垂症

眼瞼下垂症とは、上眼瞼（上まぶた）が十分に挙がらなくなる（挙げにくくなる）状態をいいます。先天性（生まれつき）の眼瞼下垂と、加齢や物理的的刺激、外傷、神経の疾患などが原因となって生じる後天性の眼瞼下垂があります。

後天性の眼瞼下垂の中でも、多くの方が症状をお持ちで、手術によって改善が期待できる病態が、腱膜性眼瞼下垂です。

腱膜性眼瞼下垂症

まぶたを上げる筋肉（眼瞼挙筋）とまぶたとの連結部分である眼瞼挙筋腱膜が、外れたり薄く伸びたりしている状態です。まぶたを上げるのに努力がいるようになり、やがて開きにくくなってしまいます。

加齢により生じやすい現象ですが、まぶたを擦る習慣がある場合やハードコンタクトレンズを装用される場合には若い方でも生じることがあります。

以下のような症状は、腱膜性眼瞼下垂症と関係が深いといわれています。

- ・ 天井が見づらい
- ・ 眼と眉毛の間が広がった
- ・ 二重のラインが浅くなり、三重になった
- ・ 上まぶたが凹んだ
- ・ 額のシワが深くなった
- ・ 原因不明の頭痛が続いている
- ・ いつも肩こりがある

治療

上まぶたの二重のラインを切開し、外れた挙筋腱膜を元の位置に戻して固定する手術を行います。局所麻酔で行います。まぶたの手術では、術後に一時的な腫れを伴いますので、短期入院をおすすめしています。



手術前



手術後